

防災活動を切り口に自治会運営の見直しを



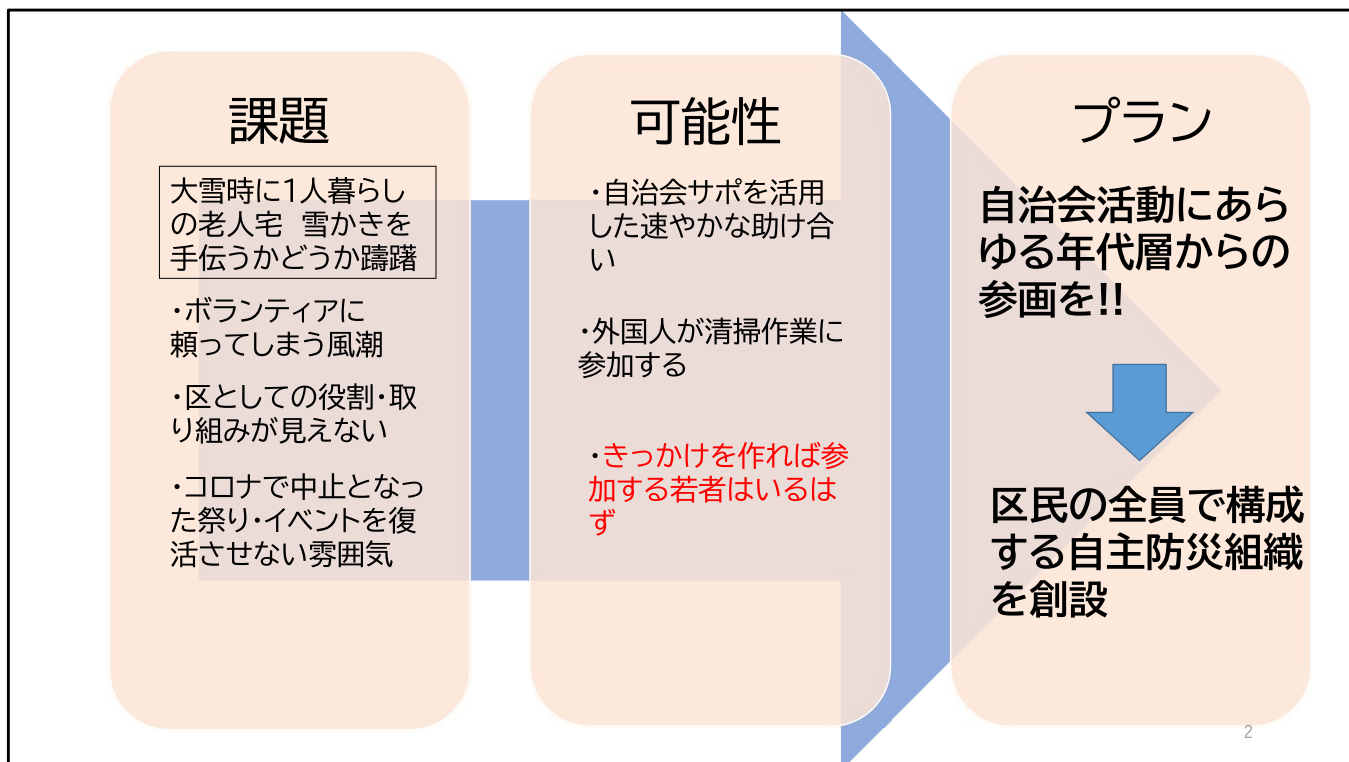
2班

長畑区
横越区
朝陽区
温泉区

大崎 雄二
大嶋 伸昭
中屋 俊人
伊藤 俊輔

1

それでは2班の発表を始めます。2班では 防災活動を切り口とした自治会運営の見直しを提案いたします。



この提案はひとつの事案からスタートしました。大雪の時にお年寄りの一人住まいのお宅に雪が積もり、このままでは買い物も行けずに、生活に支障がでてくるであろう、区としてはどうしたらいいのかという状況から端を発しました。課題を把握し、近年の可能性を組み合わせながら、区民全員で構成する自主防災組織の立ち上げという提案に至りました。

地域の問題・課題

事例 大雪時の1人暮らしの老人宅問題
(雪かきや買い物は大丈夫?)



背景

- ボランティア精神に頼ってしまう風潮
誰かがやってくれるだろう…
区長や班長、福祉委員が考えてくれるだろう…
- コロナ機に祭り等が中止のまま
関係の希薄化、助け合いの停滞
- 課題を認識しても一年交代の区長・役員では
取り組みが継続されない ←でも…改善は困難

3

まずは、課題の整理です。老人宅の雪かきに二の足を踏んでしまうの何でしょうか。自分一人では骨が折れる作業になりますので、誰かがやってくれるだろう、区長さんが考えてくれるだろう等のボランティアに頼ってしまいます。また、現状では、コロナの影響で祭りなどの催しが中止のまま、住民同士の関係が希薄のまま、助け合いも停滞しています。その雪かきの課題を認識できたとしても、区長や役員が1年で交代してしまうと、課題は継続して共有されず、なんの取り組みもできないこととなります。

地域の可能性

自治会サポの活用

- ・区のグループ内の連絡が早い 緊急連絡も可
- ・打合せ日時の調整やアンケート調査が容易
- ・災害時の掲示板機能 除雪状況、冠水状況、安否確認

自治会運営のサポーター

- ・自治会縁(ゆかり)の転出者
- ・外国人労働者の協力
- ・...

女性や若者の参加きっかけづくり

- ・コロナ後の祭り、イベントの復活
- ・対話やアンケートで意見やアイデアを収集



**これまでの
自治会運営を
見直し、新たな
仕組みづくり
を！！**



4

次に可能性を探っていきます。市では自治会サポの活用を推進しています。自治会サポの機能には、通知機能があり、早く情報が伝達できる外、打ち合わせ日の調整やアンケート調査も実行できます。特に災害時の掲示板機能を利用して、除雪や冠水の状況の発信や安否確認も可能です。

次に、市内の事例には、区外に転出された方であっても実家に住む高齢の親に代わって自治会活動に参加される方がいらっしゃいます。また、外国人の技能研修性が区内の清掃作業に参加していることもあり、これらの方々は自治会運営をになっていただく貴重な戦力になると考えられます。

次に女性や若者を中心として、祭りやイベントの復活を目指す動きや、対話を通じて意見を出し合う動きも出てきています。

以上を活用しながら、自治会運営を見直し、新たな仕組みづくりを行う必要があると思います。

世代融合でみんな関われる 自治会運営

全員が運営に携わることで、住民自治への関心を高め、意見を聞き、役割を分担することで、持続的な自治会運営を目指す。

世代交代ではなく、世代を融合した、全員参加型の自治会運営である。

5

世代融合でみんなが関われる自治会運営を提案します。世代交代ではなく、世代を融合した全員参加型の自治会運営を目指します。なお、ここでは役員の任期の改正等ではなく、全員が運営に関わることで住民自治への関心を高め、持続的な自治会運営を目指します。

アクションプラン

区民みんなが関わる 自主防災組織をつくろう！！

STEP1
組織をつくる
(リニューアル)

趣旨	防災は住民の最大の関心ごと	防災活動を否定する住民は誰もいない
構成	小学生から高齢者まで全員が所属する組織を目指す	
活動	区民それぞれの関心や特技を生かして、5グループほどの部会を設置	
例)	救命・救助班	発災直後の倒壊家屋等からの救助
	安否確認・避難班	区民の安否取得、指定避難所への誘導
	炊き出し班	薪やガスを使った炊き出し
	情報・広報班	河川水位や被害状況の調査・広報
	...	



6

アクションプランとして、防災活動をテーマとして、区民みんなが関わる自主防災組織を創設します。

ステップ1として、まずは組織をつくります。現在設立済みでもリニューアルの参考として聞いてください。

住民にとって防災は生死に関わる活動ですので、その活動を否定する住民はいません。構成員は小学生から高齢者までほぼ全員とし、防災を学びながら、年齢や興味、専門に応じた班を構成します。ここでは例として、4つの班を標記しました。いずれも普段から必要な物品がどこににあるか、また道具の使い方に慣れておくなど、定期的な訓練や点検が必要となります。

アクションプラン

区民みんなが関わる 自主防災組織をつくろう！！

STEP2
創意工夫で
効果UP

👍 全員が構成員 役割と分担

原則、子どもから高齢者までの区民が関わることで、個々の負担軽減を図る
世帯主中心の自治会運営からの脱却

👍 自治会サポの活用

・ 打合日の調整、会議の案内、ニーズ把握と備品等のアンケート調査、
安否確認、被害状況等

👍 人材の確保(準構成員)

- ・ 老人世帯の場合は区外にお住まいの身内の方々
- ・ 外国人労働者(技能実習生)にも協力を呼び掛け



本組織の特徴と工夫です。子どもから高齢者まで全員の区民で構成することで、これまで区長や役員に負担となっていた労力の軽減を図ります。世帯主が中心となっていた自治会運営を見直すきっかけにもなると思います。
次に自治会サポの活用です。デジタルによる情報伝達は速やかであり、ITを得意とする若い世代にも親和性が高いので、強力なアイテムとなり得ます。
そして、人材の確保として、老人世帯の場合は区外にお住まいの息子さんや娘さんに、また、区内の外国人労働者にも協力を呼び掛け、準構成員として入っていただき、少子高齢化にあってもできるだけ関係者の参加によるパイを増やし、層の厚い防災活動を行いたいと思います。

アクションプラン

区民みんなが関わる 自主防災組織をつくろう！！

STEP3
効果を実感
自治会運営に
気づきを

- ・ 顔と顔が見えるふれ合いを醸成
区内の活性化、行事の復活等に寄与、イベントへの応用
例 炊き出しは祭りの振る舞いに。
- ・ みんなで役割を分担することで、区長や役員の負担を軽減
女性、若者、子供が参画
- ・ そして、防災をテーマに自治会に対する区民の関心が向上↑

自治会運営を見直すきっかけに

8

防災をテーマにした取り組みに全員が携わることで自治会運営にさまざまな良い影響をもたらすと考えています。顔と顔が見えるふれ合いは区内の活性化につながり、行事の復活やイベントの応用にもつながります。例えば炊き出し班ではカレーライスを作って祭りの時に振舞うこともできます。

次に、役割をみんなで分担できるので、区長や役員さんの負担を軽減することができます。

そして、なにより自治会に対する関心が上昇すると考えられます。

これは、自治会運営を見直すきっかけとなり、女性や若い世代、子ども達の参加により、組織の見直し等について話し合いができる自治会へと発展していくことでしょう。

自治会WSに参加して感じたこと

- ・現状→背景→課題が整理できた。今後は自分の立場や環境の中で、どうしたらもっとよくなるかアンテナをはって取り組んでいきたい。
- ・このアクションプランは住民自治をバージョンアップしていく上で、切っ掛けになってほしい。
- ・坂井市の未来 少子化・高齢化への対応どうすればよいか、考えることができた。
- ・自治会サポを使って、住民どうしのコミュニケーションを高めていきたい。
- ・自治会運営について、何かヒントになるものがないか参加しましたが、画期的なアイデアはなかった。自分で考えることが必要だと思った。
- ・近道はない。小さなことから始めて一つ一つ考えながら前進する。